



甲運小だより

9月号②
令和6年9月25日

甲府市立甲運小学校
発行責任者 山岸 正人

全国学力・学習状況調査の結果について

カラーでご覧になりたい方は
右のQRコードから甲運小
学校のホームページへ



本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、4月22日(月)に実施され、本校でも6年生が参加しました。この調査は、本校児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活面の改善などに役立てることを目的としています。

本校では、夏休み中に文部科学省から送られてきた本結果と合わせ、各教科と質問紙調査を全教職員で分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。結果をもとに学校では、どのような取り組みを行っていくか検討を行い、「各教科における改善点」をもとに取り組みを進めています。

各教科の状況・課題



	国語	算数
全国平均正答率	67.7	63.4
本県平均正答率	68	62
甲運小	○	○

- ◎全国・県平均を上回っている
- 全国・県平均とほぼ同等
- △全国・県平均を下回っている
- *都道府県平均正答率の小数点以下は明らかにされていません。



令和6年度 全国学力・学習状況調査 教科別平均正答率(%)

- ・国語、算数ともに、全国平均・県平均と比べて「ほぼ同等ではあるが詳しく見るとやや高い」という結果となりました。
- ※文部科学省では、全国平均正答率の±5ポイントの範囲内にある場合は、全国平均と「ほぼ同等で、差はないものと判断できる」としています。

各教科の状況・課題



国語

本校の平均正答率は、全国平均と比べて「ほぼ同等ではあるが詳しく見るとやや高い」となっています。領域別に見ると、知識及び技能においては、「我が国の言語文化に関する事項」が高く、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題があるという結果になりました。思考力、判断力、表現力においては「読むこと」「書くこと」が高くなっています。

《正答率が高かったもの》

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること
(問題番号1ー：話すこと・聞くこと)
- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすること
(問題番号2ー(1)：書くこと)
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
(問題番号2二：書くこと)
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすること
(問題番号3三：読むこと)
- ・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと
(問題番号3四：我が国の言語文化に関する事項)

《課題：正答率が低かったもの》

- ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること
(問題番号1二(2)：話すこと・聞くこと)
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
(問題番号2三ア：言葉の特徴や使い方に関する事項)

算 数

本校の平均正答率は、全国平均と比べて「ほぼ同等ではあるが詳しく見るとやや高い」となっています。これを領域別に見ると、「データの活用」については、全国・県平均を上回り、「数と計算」・「図形」・「変化と関係」領域は、全国及び県平均ともにほぼ同程度の結果となりました。

《正答率が高かったもの》

- ・ 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解すること
(問題番号2 (2) : 数と計算)
- ・ 五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること
(問題番号3 (4) : 図形)
- ・ 除数が小数である場合の除法の計算をすること
(問題番号4 (1) : 数と計算)
- ・ 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
(問題番号4 (3) : 変化と関係)
- ・ 二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理すること
(問題番号5 (2) : 変化と関係)

《課題：正答率が低かったもの》

- ・ 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと
(問題番号1 (1) : 数と計算)
- ・ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること
(問題番号4 (2) : 変化と関係)
- ・ 速さの意味について理解すること
(問題番号4 (4) : 変化と関係)

※課題となった問題については、別紙を参照して下さい。

各教科における主な改善点及び授業における具体的取組



◎これまでも進めている「甲府スタイル」をもとにした授業改善を図っていきます。

○問題文をじっくり読み、問題文に合わせて思考する習慣を身に付けていきます。

国 語

- ・ 共通のテーマについて、多様な資料を用いて話し合い、それぞれの意見を尊重し合いながら、結論を導き出す活動やグループで様々な意見に触れ、自分の考えを整理する活動、説明文、物語文、意見文など、様々な種類の文章を書く活動を意図的に設定し、相手にわかりやすく伝えるよさを実感できるようにしていきます。
- ・ 同じ漢字でも文脈によって意味や読み方が変わることを理解し、様々な例文に触れたり、日々の出来事や考えたことを文章にまとめたりする活動を通して、自然に漢字を使う機会を増やし、漢字の理解を深めていきます。また新聞記事、物語、説明文など、様々なジャンルの文章を読むことで、語彙力と読解力の定着も図っていきます。

算 数

- ・ 「数量関係を捉え、式に表す」では、問題文の内容を図やテープ図、表などに表す活動を取り入れたり、問題場面を再現する活動を取り入れたりして数量関係を視覚化していき、理解を深めていきます。また、複合的な問題や、数量が増える問題など、様々なタイプの文章題に取り組んでいきます。
- ・ 歩く速さ、走る速さ、自転車に乗る速さなど、子どもたちの身近な体験と結びつけ、速さのイメージを具体的にするなど、日常生活と関連付けて、理解を深めていきます。また道のりや時間を表すグラフを作成し、速さと時間の関係を視覚的に捉えられるよう工夫していきます。
- ・ 速さの概念や計算方法を定着させるために、基礎的な問題を繰り返し解き、様々なタイプの応用問題につなぎ、思考力や問題解決能力を養います。

質問紙調査から見る本校児童の主な特徴



質問紙調査は、学習に対する興味・関心、規範意識・自己有用感、生活習慣・学習習慣等を63の項目において調査したものです。本校児童の主な特徴は次のとおりです。（なお、文中の「肯定的」というのは、問いに対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えている場合をいいます。）

基本的生活習慣

「朝食を毎日食べている」という児童はほぼ10割近くの回答となっています。就寝時刻、起床時刻ともに、安定しています。学力向上の第一歩は、基本的な生活習慣を身に付けることから始まります。朝食を必ずとることや、早めに就寝し生活のリズムを整えることが大切になります。

規範意識、自己有用感

「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」の設問に、9割を超える児童が肯定的に回答して、全国及び県平均を上回っています。「将来の夢や目標を持っている」の設問では、8割近くの児童が肯定的に回答しており、県・全国平均と同等の結果となっています。「自分にはよいところがある」については、8割近くが肯定的に回答していますが、全国及び県平均を下回っています。「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいか」については、ほぼ10割の児童が肯定的に回答して、全国及び県平均を上回っています。

「友達関係に満足していますか」「学校に行くのは楽しいと思えますか」の設問に、8割近くが肯定的に回答しており、県・全国平均と同等の結果となっていますが、「当てはまる」と回答した児童は全国及び県平均を上回っており、より良い友達関係を構築し学校生活を送っているようです。また「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがどれくらいあるか」については、9割を超える児童が「よくある」「ときどきある」と回答しています。

学習習慣、学習環境について

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」の設問に、9割を超える児童が肯定的に回答し全国及び県平均を上回っています。

家庭学習については、平日に1時間以上学習している児童が7割弱で、全国や県平均を10ポイント以上上回っています。休日についても1時間以上学習している児童が7割を超え、2時間以上については3割強と、全国や県平均を10ポイント以上上回っています。家庭学習は、学校での学びを定着させる重要な役割があるものです。今後も、学年×10分の家庭学習を推し進め、全職員で共通理解を図り、学習習慣の定着を目指していきたいと考えています。

I C Tを活用した学習状況、主体的で対話的な深い学びの視点からの授業改善への取組

I C Tの活用状況については、国や県の状況を大きく上回り、「自分のペースで理解しながら学習をすすめることができる」「分からないことがあったらすぐ調べることができる」「楽しみながら学習を進めることができる」「学習内容がよく分かる」といった設問への肯定的な回答が多くなっています。また「自分の考えがうまく伝えることができる」「友達と考えを共有しやすくなる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」といった設問への肯定的な回答も多く、協働的な学びにおいて児童自身も効果的なツールだと考えているといえます。

「今までの授業では、課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」「授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間になっているか」の設問では、8割を超える児童が肯定的に回答し、「当てはまる」と回答した割合は全国及び県平均を大幅に上回る結果となりました。

文科省の分析結果から「自分にあった授業」の設問は、「学校に行くのが楽しい」の設問と関連性があることや、「主体的・対話的で深い学びや個別最適な学び」の取組が、前述の自己有用感等にも影響を与えている可能性があることも示されています。

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の学習状況

総合的な学習の時間における「自分で課題を立てて、情報を集め整理して発表する活動への取組について」は、国や県を大きく上回り、9割を超える児童が肯定的な回答をしています。

「授業や学校生活で、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組むこと」、「学級をより良くするための学級会で話し合い解決方法を決めて行くこと」、「学級での話し合いをいかして自分が努力すべきことを決めて取り組んでいること」についても、約9割の児童が肯定的に回答しています。

道徳の授業では、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動にとりくんでいる」についても、9割の児童が肯定的に回答しており、学級内の友達関係が安定し、教師からも認められていることによって、自分の考えを表出しやすい学級の雰囲気づくりがなされている成果であると推察しています。

地域や社会に関わる活動状況について

「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」については9割を超える児童が肯定的に回答し、「当てはまる」の回答は7割を超えており全国及び県平均を大きく上回っています。

家庭・地域の皆様へのお願い



以上が本年度の学力学習状況調査の結果となります。学力は生活習慣と密接に関係しています。本校の子どもたちは、早寝、早起き、朝ご飯といった基本的な生活習慣を土台として、友達と良好な関係を築き、安心して自己を表出できる学級の中で、着実に学力を高めている様子が見て取れました。

学校ではこれらの結果を踏まえ、授業や行事を工夫し、自分に自信の持てる子どもたちを育てていきたいと考えています。自信を持った子供たちが、自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていけるような教育を進めてまいります。

生活習慣や学習習慣は、学校だけでの取組では確立できません。学校と家庭・地域が一体となって子供たちの主体的な学習・生活態度の育成のための取組を進めていく必要があります。

子供たちの健やかな歩みのために、引き続き保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

《課題となった問題》 ※国立教育政策研究所のHPに全問題、正答例が掲載されています。

国語

問題番号1二(2)：話すこと・書くこと

- (2) 和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
 - 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
 - 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
 - 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

深緑小学校 村木さん

海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願ひします。

③ メールありがとうございます。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしようかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ セっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【オンライン交流の様子の一部】

○本校の児童は、「和田さんが、相手が興味をもっていることに気付いたことを捉えること」はできているが、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることができていない、あるいは「和田さんが、自分の体験を加えて話していることを捉えることはできているが、相手が興味をもっていることに気付いたことを捉えることができていない」と考えられます。※この問題では、和田さんが「よく分かりました。おもしろそうですね。」という村木さんの発言を受けて、相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話したことを捉える必要があります。

国語

問題番号2三ア：言葉の特徴や使い方に関する事項
次のアを漢字でいねいに書きましょう。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

※学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことを継続していく必要があります。

算数 問題番号1(1)：数と計算

ゆうまさんたちは、折り紙で遊んでいます。

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。

ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。

こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア $72 + 28$
- イ $72 - 28$
- ウ 72×28
- エ $72 \div 28$

○本校の児童は「少ない」という言葉から、誤って減法を用いていると考えられます。

※二人が持っている折り紙の枚数の関係について図に表すなどして、こはるさんが持っている折り紙の枚数が、ゆうまさんが持っている折り紙の枚数より28枚多いことを捉え、加法を用いることが必要となります。

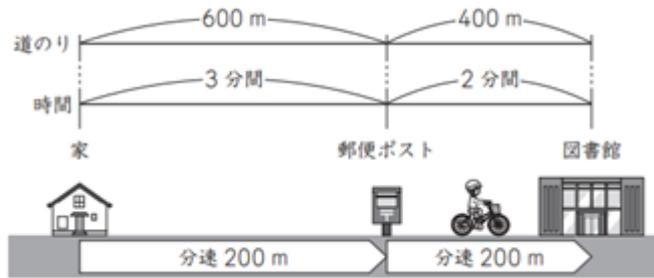
算数 問題番号4(2):変化と関係

(2) たけるさんは、3分間で180m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800mを歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。

算数 問題番号4(4):変化と関係

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通過して図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200でした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。

答えを書きましょう。

※速さが一定であることから、時間が2倍、3倍、4倍、…になれば、それに伴って道のりも2倍、3倍、4倍、…になるなど、時間と道のりが比例関係にあることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係を用いたりすることが必要となります。

※家から図書館までの速さを求める場合には、問題の場面から、家から図書館までの道のりと時間を読み取り、それらを基にして速さを求めることが必要となります。